

夏の甲子園で、比叡山の8強入りを大きく伝える毎日新聞大阪本社版の夕刊。土平ドンペイさんはスタンドから声援を送った =1982年8月16日付

16日(月曜日) 朝日新聞 厚木 (夕刊)

比叡山、8強入り



比叡山一校野球部。二塁手の比叡山出典、捕手が藤田。左に岡田、右に土平ドンペイさん

猛打で鹿商工を大逆転

福西の一発含む15安打

1982年春、硬式野球部の特待生として私立比叡山高(大津市)に入学した。県外の野球部員は、全国から来ているお坊さんの子(宗内生)と一緒に山家寮に入るんです。全部員は130人ぐらいいました。1年は80人ぐらいいですけど、4月はお客様扱いで、球を持つての練習は一回もなく、腹筋1000回とかダッシュとか、5月の本人部までに20人ほど減った。

はい上がる人 わたしの歩跡

大部屋出身の俳優 土平ドンペイさん(52) 草津市

1982年春、硬式野球部

てましたね。

無理難題を言う先輩がいて、練習に少しでも遅れたりすると、「お前ら、わかってるやろな、跳んどけ」。跳びは本塁と両翼ボールの三角形をうきぎ跳びさせるんです。何秒以内に戻って来ないともう一回。この繰り返し。三角、っていうのもあって、「一年、三角や。30秒以内、用意スタート」って全員ぶわって、そこを走らせ

るんです。「あと3秒、2秒、1秒。だめえ」。1人遅れてももう一回。延々と走らせよるんですよ。「この辺で負けたいなら」。ほっとさせると「次は跳べ」。跳びと三角と三角と聞いて、比叡山を卒業した人でぞっとしない人がいないくらい厳しい。絶対負けてられへんって気はずっとありました。

「きょうは全員バット3本持って来い」。跳ばなくていいので最初は喜んでですけど、バットの上で正座させられ、延々と話を聞かされるんです。弁慶とか、痛い所3カ所にちようど当たるんですよ。「跳び」とどどちがしんどいかわからないくらい。それが夏の大会まで続き、野球をすっかりやめた覚えがないんですよ。

跳びと三角はその数年後に廃止されたという。日曜は県外の強豪校と2、3試合するんです。1年は朝から夕方まで竹バットで素振りをするんですけど、ファウルボールが山に入ったら、探しに行ってみつかるまで戻って来たらあかんって言われて。でも山の中は天下なんです。極楽なんです。

人数が多くて一日いても気づかないから。慣れて来ると、昼休みとかにボールをこっそり隠しておきます。あれ？ ボールあるやんって思ったら、違っ

甲子園目指し野球漬け



1982年夏に甲子園出場を記念して部員全員がもらった、憧れの通称「アメリカンバッグ」。大切に保管している

奴が隠しているんですね。夕方に「そろそろまじい」って、隠しておいた「キープボール」を持って戻るんです。

真夏に山に入った2人が中腹にある川の水をがぶがぶ飲んでたんです。真上のケールからお坊さんが見とって通報されて、「お前ら水飲んどったやろ」。これ(指で三角を描く)が始まるんですよ。

この夏、比叡山は甲子園で2回目の8強進出。準々決勝では準優勝した広島商業に2-5で惜敗した。直前の試合は池田(徳島)ー早稲田実業(東京都)。「やまびこ打線」と呼ばれ、初優勝する池田には、後に巨人で活躍した水野雄仁投手(当時は外野手)、早実には絶大な人気

を誇った荒木大輔投手(ヤクルトなど)がいて、野球ファンにとっては印象深い年だ。

僕みたいな大阪出身者は練習に帯同させてもらって、試合はアルプス席から応援していました。甲子園は目の前やなと思っていましたねえ。

その直後、野球人生を脅かす悲劇に見舞われる。

エリア編集委員・大澤重人

ドンペイさんがフェイスブックで発信中。比叡山高の合格発表について、読んだ方から「子どもの希望がなくなって嬉しい気持ちと離れてしまっ寂しい気持ちだったのかな」って、お母様の気持ちを想像して、うるっと

再放送で玉井役

来てしまいました」とのコメントが届きました。NHK連続テレビ小説「べっぴんさん」がBSプレミアムで再放送中。月々土曜午前7時15分。半ズボン姿で人目を引いた玉井役を熱演しています。

比叡山高校硬式野球部

甲子園に春5回、夏8回の計13回出場。通算6勝13敗。1978年春の1回戦で、前橋(群馬)の松本稔投手に大会初の完全試合を喫する。しかし翌79年夏に県勢として大会初勝利を挙げ、一気に8強入り。82年夏にも8強。春は96年に16強。

ハードな練習も跳びに耐え